



## 新医師臨床研修制度における 地域保健・医療の研修開始に当たって

副会長 長瀬 清

平成16年4月から始まった新医師臨床研修制度（以下、研修制度）は、2年目研修に入りいよいよ地域保健・医療の研修を開始する。研修制度自体、開始直前まで手当、身分保障、臨床研修病院決定方法（マッチング制度）等多くの問題があり、かなり不安な状況での発車となった。

### 1. 研修医の臨床研修病院選択の動向

研修制度開始時の研修医の研修病院選択と平成16年に行われた第2回目のマッチングの結果からみた動向では、全国的に大学離れの傾向がみられたのが特徴的であった。

北海道では（表1参照）、平成15年、3医育大学病院および臨床研修病院の全マッチ者数315名のうち、226名、71.7%が3医育大学病院での研修を選択したが、平成16年の第2回目のマッチングでは、マッチ者合計333名のうち3大学病院のマッチ者は174名、52.3%と著明な減少を示した。これに対して大学以外の臨床研修病院ではマッチ者数159名、47.7%と大幅な増加がみられた。

二次医療圏毎の研修医の動向をマッチング結果からみると（表2参照）、平成15年、マッチ者数315名の内、札幌圏242名、76.8%で、上川中部42名（13.3%）、その他の圏域30名（9.5%）であったものが、平成16年では333名のうち札幌圏232名（69.7%）、上川中部37名（11.1%）と減少し、そ

の他の圏域は64名、19.2%であり、都市部から地方への流れが見られた。これは大学から地方の臨床研修病院へ研修の場を変えたことによると考えられる。

### 2. 地域保健・医療の研修

今回の研修制度の大きな目的の一つに、プライマリ・ケアや僻地医療の理解ということがある。その達成のために内科、外科（救急、麻酔を含む）、小児科、産婦人科および精神科の研修に加えて地域保健・医療の研修を必修化した。地域保健・医療の研修の在り方については、当初より現在に至るまで、まだ模索状態にあるといえる。

道は、積極的に保健所あるいは僻地の診療所での研修を奨めている。道が調査したところでは、地域保健・医療の研修に協力したいと希望している自治体病院および診療所は、病院26、診療所8

表2 二次医療圏ごとの研修医マッチング結果  
（単位：人）

	平成16年		平成15年	
マッチ者数	333	100%	315	100%
札幌圏域	232	69.7%	242	76.8%
上川中部圏域	37	11.1%	42	13.3%
その他の圏域	64	19.2%	30	9.5%

（北海道保健福祉部医療政策課調べ）

表1 道内の研修医マッチング結果の概要

（単位：病院、人）

	平成16年						平成15年					
	臨床研修病院		大学病院		合計		臨床研修病院		大学病院		合計	
参加病院数	55	94.8%	3	5.2%	58	100%	47	94.0%	3	6.0%	50	100%
マッチ者数	159	47.7%	174	52.3%	333	100%	89	28.3%	226	71.7%	315	100%

（北海道保健福祉部医療政策課調べ）

カ所を数えた。各研修病院としても対応は、自院で行うところ、日常診療で連携する施設を利用したり、保健所実習、老人保健施設、僻地の診療所を活用する等様々である。制度開始当初は試行錯誤しながら進んでいくものと思われる。

北海道医師会では、一般中小病院および診療所で臨床研修に対して、どれ程関心を持たれているのか、研修生を引き受けてもよいと考える医療機関がどれ程あるのか、昨年11月意向調査を行った。道医会員の所属する医療機関および老人保健施設のうち、既に臨床研修指定病院、協力病院、協力施設の登録されている施設、事業協会・厚生連・勤医協等幾つかの集合がなされている施設、および道立関係施設を除く3,122施設を対象に調査を施行した。回答は1,011施設（回収率32.4%）から得られた。

結果は、協力したい 128件（12.7%）、説明を聞きたい 110件（10.9%）、その他 11件（1.1%）、協力できない 762件（75.4%）であった。協力したいという医療機関が予想以上に多いことを知った。地域保健・医療の研修制度を、身のあるものに育てていくためには、会員の先生方の奉仕的協力が必要である。

### 3. 医師会の関与と今後の取り組み

北海道医師会は研修制度開始に当たって、制度の順調な遂行を側面から援助すべく早期に組み

を開始した。平成14年12月には道内3医育大学の研修担当者との連絡会議を開催し、研修制度開始に対しての進捗状況、問題点の話し合い等大学間の情報交換を行った。その後、行政（道および北海道厚生局）、3医育大学、研修病院、病院協会等と連絡協議会設立、道主催の研修病院合同プレゼンテーション（東京および札幌開催）に参加協力体制を取ってきた。

また道医独自の協力体制として、臨床研修および臨床実習の指導医のための教育ワークショップを開催し、指導医養成の手伝いをしている。これはこれまでに平成16年3月、平成16年7月と2回実施した。これまでは研修病院の指導医のために行ってきたが、今後は研修協力施設としていわゆる研修病院や研修協力病院以外の中・小病院や診療所および老健施設の先生方にもこの教育ワークショップに参加して貰うようにご案内したいと考えている。

研修医の方々の地域保健・医療の研修の在り方や効果的運用のために、感想、要望、意見を把握し、医師会としての研修制度に対する対応をはかっていくことが必要と考えている。

全国各地の医師会はそれぞれに暗中模索しながら、手探りで道を切り開くべく努力している。

当医師会としても会員諸先生の協力を得て、将来につながる制度の発展に寄与していきたい。

## 報 告

### スマトラ沖大地震・インド洋津波災害救援のための義援金について

スマトラ沖大地震・インド洋津波災害救援のための義援金について、先般、北海道医報等にて協力要請をいたしましたところ、会員各位および各郡市・医育機関医師会より総額4,686,737円の義援金が集まりました。

本義援金は、当会の30万円を加え、日本医師会宛に送金し日本放送協会を通じて日本赤十字社へ寄付されましたので、ご報告申し上げます。

皆様のご協力で御礼申し上げます。